

科目名	観光文化論	科目コード	1585	単位数	2
担当者名	山田 勅之	開講セメスター	第4セメスター	開講年次	2年次
授業の方法	講義	到達目標	B,C,F	実務経験	無
ナンバリング	KT0407	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

●授業のねらい

一般的に観光の現場で出会う文化事象を観光文化と呼びます。では、文化が観光の対象となるには、どのようなプロセスがあるのでしょうか？また文化が観光の対象となることで、どのような現象が起こっているのでしょうか？本講義では、このような問題意識のもと、「まなざし」「真正性」「伝統の創造」「文化の遺産化」といった観光文化論における論点を、様々な事例を通じて考察します。以上から、豊かな知識と柔軟な発想力の涵養を図ります。

●到達目標

様々な事例から観光文化とは何かを理解する。そこから商品となった観光文化がどのように売られるのか、あるいは観光文化の生成過程において、地域住民や社会とどのような関係性が認められるのか、他の授業と連結させながら考察しよう。これらを通じて、国際社会と地域社会、そして観光産業に貢献できる力を身につけることができます。

●授業内容

- 1週目 ガイダンス 観光文化論の論点
- 2週目 世界遺産：理念と現在
- 3週目 世界遺産：課題と未来
- 4週目 文化の遺産化：白川郷
- 5週目 文化の遺産化：和食
- 6週目 日本の中の「外国」 大阪コリアタウン
- 7週目 日本の中の「外国」 大阪大正区リトル沖縄
- 8週目 外国の中のNIPPON 近現代台湾とは？
- 9週目 外国の中のNIPPON 台湾近代化遺産
- 10週目 宗教とツーリズム 祭りと宗教と社会
- 11週目 宗教とツーリズム 近代が「創った」社寺参詣
- 12週目 宗教とツーリズム スピリチュアリティ、パワースポット
- 13週目 土産物の文化
- 14週目 ディズニーランドを読み解く
- 15週目 まとめ 小論文作成
- 16週目 振り返り・講評。但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は補講授業を行う。

●準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考書や関連の文献に基づいて予習を行う（1時間程度）。  
 毎授業配布するレジュメの復習をする（1時間程度）。

●成績評価の方法・基準

授業時に実施する小レポート 50%  
 期末テスト（小論文） 50%

●履修上の留意点

- ・毎講義、質問やアンケートへの回答、及び小レポートの提出を課します。これらのうち、小レポートを除いてmanaba上で行いますので、スマホやタブレット、ノートパソコンなどのモバイル端末を持参ください（学内アクセスポイントを使用予定）。小レポートはレポート用紙を配布するので、回答のうえ提出します。
- ・遅刻や私語、飲食などの迷惑行為を慎むこと。改善されない場合は不合格となることがあります。欠席・遅刻は授業参加度の観点から管理しますので、ご注意ください。
- ・毎回配布するレジュメはまとめの小論文作成に必要となるので、保管しておくこと。

●課題に対するフィードバックの方法

- ・小レポートは基準に基づいて3～5段階に評価して返却します。
- ・小レポートの提出がなされない場合、欠席扱いとするので注意してください。

●テキスト

特になし。毎授業レジュメを配布する。

●参考書

遠藤英樹・橋本和也・神田孝治編著『現代観光学 ツーリズムから「いま」がみえる』（新曜社）2310円  
 ジョン・アーリ著、加太宏邦訳『観光のまなざし 現代社会におけるレジャーと旅行』（法政大学出版局）5060円

●更新日付

2025/03/22 04:21